

「まいごのイソガニ 森へ行く」 の舞台となる森林について

おはなしの舞台は、照葉樹林です。
国内では、沖縄から東北地方南部に分布し、
シイ属、アカガシ亜属、タブノキ属、ツバキ属
などの種で構成されています。

「まいごのイソガニ 森へ行く」では、海と森が近い宮崎県の照葉樹林を舞台と設定しました。



キーワード 「循環」

このおはなしでは、「水の循環」というのが一つのテーマになります。森と海は一見離れていて関係のないもののようにも感じますが、水の循環という点でつながっていて、イソガニ君のセリフにあるように「ものすごくなかのいい友達」なんですね。

KOBELCO森の童話大賞HPの「おはなしを書く前に」で、森についての詳しい情報を発信しています。ぜひご覧ください。
HP www.kobelco-mori-ohanashi.jp



絵本活用のヒント

第9回小学生の部金賞受賞作品

「まいごのイソガニ 森へ行く」



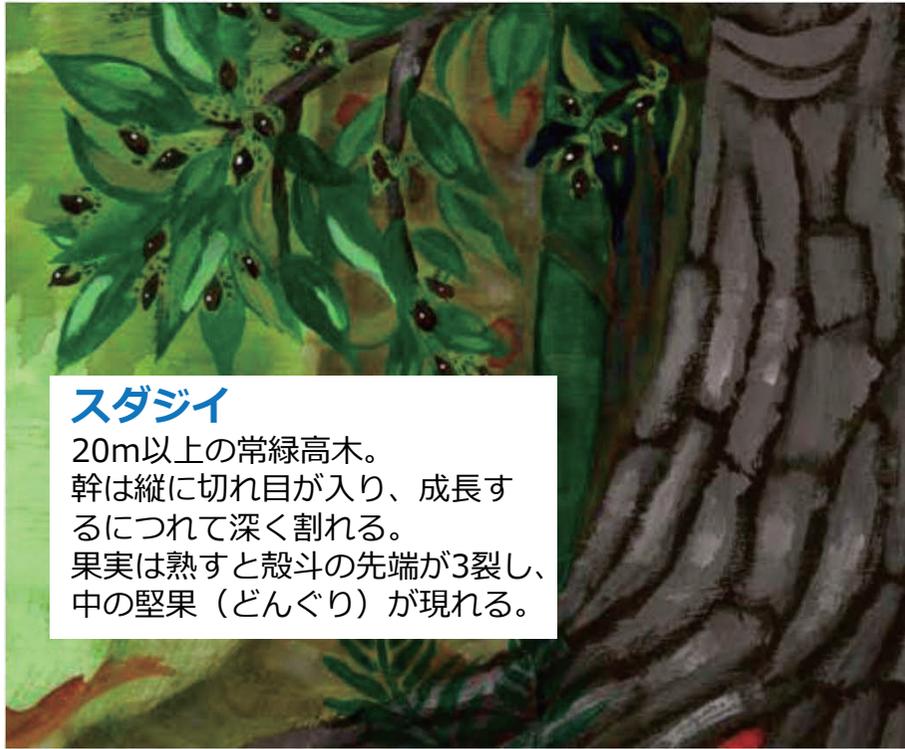
KOBELCO 森の童話大賞について

森はたくさんのいきものの命を育み、空気をきれいにし、水をたくわえ、私たちの暮らしに安全と豊かな恵みを与えてくれます。でも、一度森が元気を失ってしまうと、元通りにするには長い年月と、大変な努力が必要になります。

このような「森」を理解し、大切に育てる心を、次の世代を担う子どもたちに育んでもらうため、KOBELCOグループは「森」をテーマにしたおはなしを募集し、絵本を作っています。

この絵本を読んで、一人でも多くの子どもたちが、森をはじめとする自然について考え、かけがえのないものであると気づき、そして、いつか、森を、自然を、元気にすることを何か一つでも実行していただければと思っています。

「まいごのイソガニ 森へ行く」の世界



スタジイ

20m以上の常緑高木。
幹は縦に切れ目が入り、成長するにつれて深く割れる。
果実は熟すと殻斗の先端が3裂し、中の堅果（どんぐり）が現れる。



サンゴジュ

10mほどの常緑小高木。
赤い実をつける。

アカガシ

20m以上の常緑高木。幹はうろこ状。
果実は堅果（どんぐり）で、殻斗はお椀型で縞模様があり、毛が生えている。



モグラ



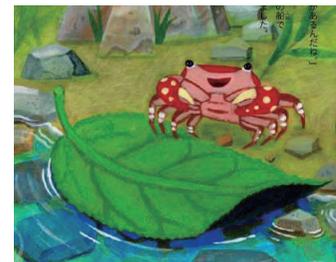
キビタキ



タヌキ



ウグイ



ヤブツバキ

10mほどの常緑小高木。
果実は直径4-5cmで、熟すと3つに裂開して、中から大きな種子が現れる。種子には油が含まれていて、椿油として活用されている。

葉は長さ5-10cm、幅3-6cm。
表面は濃緑色で光沢がある。

